





50 自らの愛刀を繋ぎ合わせ  
51 作りあげた双刃の刀。  
52 身の丈を超えるほどの  
53 長尺であり。広い範囲の  
54 妖鬼を薙ぎ倒す。NUL雷祀NUL雷祀  
55 刀身に迅雷を宿す金色の刀NUL刀身に迅雷を宿す金色刀。  
56 白虎を統べる祭器として  
57 古き朝廷により作られた。  
58 類稀な力と生命力の回復を  
59 早める働きを持つが  
60 巫術への守りが薄くなる。NUL天破NUL天破  
61 天をも切り裂く神雷纏う靈刀NUL天をも切り裂く神雷纏う靈刀。  
62 空間に最も近い神山でとれる  
63 白雷石を削り出し鍛えられた。  
64 荒ぶる雷の力は、比類なき  
65 威力を持つものの  
66 身の守りが著しく薄くなる。NUL疾き風NUL疾き風  
67 水の気を崇める里に代々伝わる鎌NUL水の気を崇める里の一族に  
68 祭器として伝わる紫苑の鎌。  
69 その刃は極めて軽く  
70 疾風の如き斬撃を出せる。  
71 持つ者の生命力の回復を  
72 早める働きを持つ。NUL哭き華NUL哭き華  
73 水龍の骨より削り出された蒼き鎌NUL万世を生きた水龍の骨を  
74 削り作られた神聖な鎌。  
75 その鋭き刃が妖鬼の魂を  
76 滅す様は、散華に例えられ  
77 巫術に関わる力が高まるが  
78 跳躍する力が押さえられる。NUL浮き羽NUL浮き羽  
79 間を司る漆黒の妖鳥を宿す鎌NUL漆黒の妖鳥を宿す鎌。  
80 扱う者の命を糧とすることで  
81 類稀な威力を生み、妖鬼を  
82 紙片の如く容易く切り裂く。  
83 しかし、持つ者の生命力の  
84 回復速度が著しく低下する。NUL滅法輪NUL滅法輪  
85 古き朝廷により作り出された宝輪NUL古き朝廷の手で作られた  
86 離れて戦うための宝輪。  
87 離れた所から妖鬼を滅する  
88 祭器。近接して戦うのには  
89 向いていないが、持つ者の  
90 跳躍力を高める働きがある。NUL八眼宝輪NUL八眼宝輪  
91 八つの宝玉が埋め込まれた宝輪NUL数百年間靈力を吹き込んだ  
92 宝玉が埋め込まれた宝輪。  
93 巫術を極めるための祭器。  
94 持つ者の『巫力』と『巫攻』が  
95 ともに大きく高められるが  
96 『物攻』は低下する。NUL流星天命輪NUL流星天命輪  
97 流星の加護を受けた神聖なる宝輪NUL天空より飛来した靈石を  
98 磨き上げて作りだされた輪を  
99 八方にはめ込んだ祭器。  
100 『物攻』と『巫攻』が極めて  
101 高まるが、生命力の回復と  
102 身の守りが著しく低下する。NUL涼華扇NUL涼華扇  
103 蒼と紅の対となる二つの扇NULそれぞれに靈力がこめられた  
104 蒼と紅の対となる二つの扇。  
105 蒼い扇は『巫防』を高める  
106 力を秘め、紅の扇には  
107 『巫攻』を高める力がこもる。NUL双龍扇NUL双龍扇  
108 二柱の古き龍神の力が宿る扇NUL千古の昔を生きた、二柱の  
109 龍神の力が宿る金と銀の扇。  
110 龍神の加護により、持つ者の  
111 『巫攻』と『巫防』が、大きく  
112 高められるが、直接攻撃を  
113 加えるには向いていない。NUL月光扇NUL月光扇  
114 月光をその内に留める二つの扇NUL月光を内に留める二つの扇。  
115 晴明の詠んだ靈句が  
116 それぞれの扇に書かれている。  
117 身につけると『巫攻』『巫防』が  
118 極めて高まるが、引換えに

119 身の守りが薄くなる。NULムーンライトソードNULムーンライトソード  
120 月光をその刃とする神剣NUL月光をその刃とする神剣。  
121 蒼き刀身にこめられた  
122 月の神靈の力により  
123 あらゆる妖鬼を灰燼へと帰す。  
124 力をこめ振るうことで  
125 蒼光の刃を放つことができる。NUT謹・あらゆる妖鬼を灰燼へと帰す。  
126 力をこめ振るうことで  
127 蒼き光刃を放つことができる。NUT光刃を放つことができる。NUTできる。NUL剣。  
128 斬撃によって、妖鬼の防御を  
129 大きく切り崩すことができる。NUL季武の2NUL季武の2NUL異国より渡來した鋼鉄の槍に  
130 霊力が練りこまれており、  
131 類稀なる硬さを誇る。  
132 耐久力や打撃の威力は高いが、  
133 巫術を扱うには向いていない。NUL季武の3NUL季武の3NUL千古の時を経て育った  
134 神木の幹より削りだされた棍。  
135 その内にこもる靈力が、  
136 扱う者の跳ぶ力を上げるとともに  
137 生命力を速やかに回復させる。NUL晴明の1NUL晴明の1NUL神を祭る任についていたため、  
138 刃物を使うことを許されなかつた  
139 巫術士が用いた、炎を纏つた棍。  
140 邪氣を祓う力を持った炎が、  
141 打ち据えた妖鬼に燃え移る。NULNULNUL黒鉄を鍛えて作られた  
142 二つの刃を持つ薙刀。  
143 古の時代の武人が用いたもの。  
144 遠心力をを利用して威力を高め、  
145 広い範囲の妖鬼をなぎ倒す。NULNULNUL鋭く削りあげられた  
146 龍の骨を刃とする槍。  
147 死してなお宿りつづける  
148 龍の御靈によって、  
149 扱い手の巫力の総量が増す。NULNULNUL三方に分かれた刃をもつ棍。  
150 刃より妖鬼の力を吸い取り、  
151 棍の内に溜めることができる。  
152 そのため、痛手を受けない限り、  
153 攻撃の度に威力が増していく。NULNULNUL既に滅び去ってしまった  
154 一角という名の巨大な鬼の  
155 角より削り出された槍。  
156 その威力は類稀なるものがあるが  
157 耐久力は低く壊れやすい。NULNULNUL杖の両端に陽の気を放つ石と  
158 陰の気を放つ石をはじめ込んだ杖。  
159 陰陽が交わり生じた巫力で、  
160 扱う者の巫術の威力を高める。  
161 ただし、打撃には向いていない。NULNULNUL『蒼龍』の力を高める杖。  
162 龍を象った装飾が施されている。  
163 先端の蒼き宝珠を介して、  
164 『蒼龍』に込める力が増幅される。  
165 ただし、打撃には向いていない。NULNULNUL『鶴』の力を高める杖。  
166 内に雷の力を秘めている。  
167 緑の宝珠を介して、  
168 『鶴』に込める力が増幅される。  
169 ただし、打撃には向いていない。NULNULNUL『胡蝶』の力を高める杖。  
170 蝶を象った装飾が施されている。  
171 先端の二つの宝珠を介して、  
172 『胡蝶』に込める力が増幅される。  
173 ただし、打撃には向いていない。NULNULNUL『鳳凰』の力を高める杖。  
174 炎を象った装飾が施されている。  
175 先端の紅き宝珠を介して、  
176 『鳳凰』に込める力が増幅される。  
177 ただし、打撃には向いていない。NULNULNUL天空より飛來した鉱石からとれた  
178 頽鉄を鍛えてできた二振りの剣。  
179 独特の光沢をもった黒い鉄は、  
180 鋼よりもはるかに硬く  
181 非常に鋭い斬れ味を誇る。NULNULNULそれぞれに太陽と月の力を  
182 込めた、二振りの太刀。  
183 同種の『弔門』を長くしたもの。  
184 対となる二つの光の加護により、  
185 状態変化への抵抗力が増す。NULNULNUL辺境の山間に隠れ住んでいた  
186 巫術士の一族が用いた手斧。  
187 妖鬼を滅ぼすというよりは、

188 退けるための祭器であるため、  
189 身を守る巫術が込められている。NUL NUL NUL それぞれに太陽と月の力を  
190 込めた、二振りの小太刀。  
191 小ぶりで扱いやすく隙が少ない。  
192 対となる二つの光の加護により、  
193 状態変化から回復しやすくなる。NUL NUL NUL 黒と白の、二本で一揃いの太刀。  
194 力ある言葉を刀身に彫りこんで、  
195 その威力を高めている。  
196 古の時代、一般的に用いられた  
197 祭器で、突出した力はない。NUL NUL NUL 月光をその刃とする神剣。  
198 蒼き刀身にこめられた  
199 月の神靈の力により、  
200 あらゆる妖鬼を切り裂く。  
201 全力で振ると、光刃を放てる。NUL NUL NUL 円月を模した刃を持つ祭器。  
202 両手に持つて振るう様子が、  
203 二羽の雲雀の空舞に例えられる。  
204 飛ばすように用いることで、  
205 広い範囲の妖鬼をなぎ倒せる。NUL NUL NUL 扱う者の命を糧とする妖刀。  
206 柄より命を吸い上げられ、  
207 死の淵に立つことと引き換えに、  
208 妖鬼を一刀の元に葬り去る  
209 紫炎の刃を形作ることができる。NUL「た手斧」NUL 辺境の山間に隠れ住んでいた  
210 巫術士の一族が用いた手斧。  
211 妖鬼を滅ぼすというよりは、  
212 退けるための祭器であるため、  
213 身を守る巫術が込められている。NUL 式門 NUL 式門  
214 対となる力をもつ二振りの小太刀 NUL それぞれに太陽と月の力を  
215 込めた、二振りの小太刀。  
216 小ぶりで扱いやすく隙が少ない。  
217 対となる二つの光の加護により、  
218 状態変化から回復しやすくなる。NUL 巫言 NUL 巫言  
219 巫印の彫りこまれた大小の太刀 NUL 黒と白の、二本で一揃いの太刀。  
220 力ある言葉を刀身に彫りこんで、  
221 その威力を高めている。  
222 古の時代、一般的に用いられた  
223 祭器で、突出した力はない。NUL ムーンライトソード NUL ムーンライトソード  
224 月光をその刃とする神剣 NUL 月光をその刃とする神剣。  
225 蒼き刀身にこめられた  
226 月の神靈の力により、  
227 あらゆる妖鬼を切り裂く。  
228 全力で振ると、光刃を放てる。NUL 雲雀 NUL 雲雀  
229 円月を模した刃を持つ祭器 NUL 円月を模した刃を持つ祭器。  
230 両手に持つて振るう様子が、  
231 二羽の雲雀の空舞に例えられる。  
232 飛ばすように用いることで、  
233 広い範囲の妖鬼をなぎ倒せる。NUL 紫怨 NUL 紫怨  
234 使い手の命を糧とする妖刀 NUL 扱う者の命を糧とする妖刀。  
235 柄より命を吸い上げられ、  
236 死の淵に立つことと引き換えに、  
237 妖鬼を一刀の元に葬り去る  
238 紫炎の刃を形作ることができる。NUL